

ノート

私立大学の教育水準とその将来

第四報 私立教育機関の在学者とその構成

富 永 保 夫

Educational Level of Private Universities and Other Prospect

4th-Report, Number and Breakdown of Students Enrolled in Institutions of Higher Education

Yasuo TOMINAGA

The number of students enrolled in institutions of higher education (undergraduate courses, graduate schools, junior colleges, etc.) has shown a consistent growth during the last 26 years, reaching 2,325,000 persons in 1986.

Of these students in 1986, university students numbered 1,880,000 (including the students of graduate schools, advanced courses, short-term courses, etc.) 3.0 times the 1960 level, and junior college students numbered 396,000 (including the students in advanced courses, short-term courses, etc.) 4.8 times the 1960 level, for a total of 2,276,000 or 3.2 times the 1960 level.

The proportion of private school students in the total enrollment in institutions of higher education rose from 66.0% in 1960 to 72.5% in 1986. The proportion is rising year by year both among university students and junior college students, reaching 72.5% and 90.3% respectively in 1986, thus suggesting a large weight borne by private schools in the quantitative expansion of higher education.

The proportion of female students in the total enrollment in institutions of higher education grew from 20.0% in 1960 to 34.9% in 1986 as a whole, from 13.7% to 24.5% at the university level and from 67.5% to 90.3% at the junior college level.

はじめに

昭和61年3月に高校を卒業した者は1,620,000人で、前年より246,700人も増加した。この大増加数は前年3月に高校を卒業した者のほとんどが昭和41年生れの丙午にあたるので、該当年令人口が減少したことによるものとみられる。昭和61年3月に高校を卒業した者の大学・短期大学への進学者数は490,200人で前年よりも71,900人の増加となった。この数値は両方ともに新制大学発足以来の最高のものである。

なお現役と浪人を合わせた入学者数643,000人も最高のレコードであるので、大学在学者が24,200人、短大のそれも24,900人の増加となった。しかるに大学・短期大学への現役・浪人を合わせた入学者数をその3ヶ年前の中学校卒業生数で除した値即ち進学率は34.7%となり、昭和50年以前の水準に逆戻りした。進学率数値のこの変動では進学割合の実勢をよく把握することが出来得ないの

で、今回新しく、富永方式の修正進学率を提唱することとした。昭和62年3月の高校新卒は実に、1,653,700人にも達すると言はれ第2次ベビーブームの受験生急増期の二年目に当り、大学・短大の入学生も恒常増と臨時増の両方に分け24,700人の増加で大量の受験生に対応はしているが、国立大の複数校受験可能ともからみ混戦模様を呈しどの様になるか成行を定めることはなかなかむづかしいことと思う。

1 大学・短大の進学率

昭和61年春の大学入学者436,900人と短大入学者206,100人の合計643,000人をその3ヶ年前の昭和58年の中学校卒業生数1,850,700人（前年比+294116人、+18.9%）で除した数値34.7%が通常大学・短大の進学率と言はれているものである。第1表に昭和50年から昭和61年までの進学率の推移をのせた。この34.7%は最近10年来

にも見当たらない程の低い値であり、前年比△2.9%と大中の下げである。また、現役進学率も10年来の続落で昭和50年の34.2%を最高にして、昭和61年は30.3%まで下げた。一方現役女子の方はあまり変動していないので、現役男子の進学率が10年間で△7.5%も下げているのがその主因である。これに対して現役女子の昭和60年の33.9%(+1.4%)、61年の34.1%(+1.2%)の数値は良い方である。概して言うならばこゝ10年来の現役学生の入学はむつかしくなり大学・短大を合せた現役合格率は73.1%(大学64.6%)、一浪の合格率は20.2%に止っている。さらに男女別で言へば男子は約60%、女子は約80%にも達しているが学部計では約65%となる。筆者が今回提唱する修正進学率は母数となっている3ヶ年前の中学校卒業業者数を実勢に合うよう次の様に変更した。即ち3ヶ年前の中学校卒業業者数の70%と4ヶ年前の卒業業者数の20%と5ヶ年前の中学卒業業者数の10%の三数を合計したものに變更した。これによれば特別増減の甚だしい年が仮りにあっても変化工合がなだらかで、長い期間の統計数値として比較してみても都合の悪いようなことはないと思う。

2 私立大学の定員超過倍率

入学定員の水増し入学とも言うべき定員超過倍率の推移を第2表にのせた。私立大学の入学定員急増と厳しい入学者の抑制策が功を奏して、昭和60年の1.28倍、61年の1.25倍はともに良い値で一寸実現困難かとも思われたが、この1.30倍は長い間の目標値であったのが一応達成することが出来た。参考のため最近5ヶ年間の平均値を示せば私立大1.312倍、公立大1.088倍、国立大1.003倍となっている。昭和50年の1.838倍と併せ考へればよくも実現出来たものと思う人が筆者以外でも多いことと思う。

3 私立大学占有率

全大学の学部計の学生数に対する私立大学学部学生数の比率であるが、この推移を第3表にのせた。私立大学の学部占有率の最高は昭和⑤①⑤②年の3ヶ年間で78.3%~78.4%であった。

昭和61年の75.0%まで下げたのは学部男子の△5.0%の下げが主因である。一方私立大学学部女子はこゝ2ヶ年間は好調に転じて下げを和げている。国立大学の学部占有率はこゝ3ヶ年間に21.9%、22.1%、22.2%と着実に上昇をたどっている。こゝ10年間の入学定員増は合計で67,100人、国立大14,700人、公立大1,000人、私立大51,200人となっている。私立大は大学院の比重が小さいため大学計では更に悪くなり、昭和61年は72.5%の占有率に止まっている。ちなみに大学計の私立大の最高値は

第1表 大学・短大進学率の推移

昭和	⑤①	⑤②	⑤③	⑥①	⑥②
大学・短大進学率	38.4%	35.1%	35.6%	37.6%	34.7%
修正進学率	37.8%	35.7%	35.5%	36.7%	36.2%
現役進学率	34.2%	30.1%	29.6%	30.5%	30.3%
現役男子進学率	33.8%	27.7%	26.6%	27.0%	26.3%
現役女子進学率	34.6%	32.4%	32.5%	33.9%	34.1%

(資料) 文献(2)と(3)による。

第2表 私立大学の定員超過倍率

昭和	⑤①	⑤②	⑤③	⑥①	⑥②
私大入学者	337,790	321,465	317,319	312,526	332,014
私大入学定員	183,729	237,034	240,104	244,874	266,321
定超過倍率	1.84倍	1.36倍	1.32倍	1.28倍	1.25倍

定員数は大学一覧。入学者は学校基本調査速報による。

第3表 私立大学の占有率(全大学学部学生数を100%)

	⑤①	⑤②	⑤③	⑥①	⑥②
私大 学部	78.3%	75.6%	75.4%	75.1%	75.0%
私大 学部男子	62.0%	58.5%	58.0%	57.5%	57.0%
私大 学部女子	16.3%	17.1%	17.4%	17.6%	18.0%
私大 学部昼間	70.9%	69.5%	69.4%	69.1%	69.0%
私大 学部夜間	7.4%	6.1%	6.0%	6.0%	6.0%

(資料) 文献(2)と(3)による

第4表 女子学生数(学部・大学院・専攻科等)

昭和	⑤①	⑤②	⑤③	⑥①	⑥②
女子学生数	368,258	415,330	425,012	434,401	452,680
女子占有率	21.2%	22.6%	23.1%	23.5%	24.1%
学部在学者 女子占有率	21.6%	22.9%	23.4%	23.9%	24.5%
学部入学者 女子占有率	22.9%	24.4%	24.9%	25.3%	25.4%

(資料) 文献(2)と(3)による

昭和50年の76.4%であった。国立大のそれは20.6%と低い値であったが、11年後の61年は大学計で24.6%までに達した。

4 女子学生数3:1に達するか?

第4表に示すように最近8ヶ年間の女子学生数の伸びは著しく、男子学生との相対的増加数が毎年10,000人以上で合計して80,000人余に達した。この勢のため昭和60年、61年の2ヶ年の学部の女子入学者の比率がついに25%を突破した。男子75%、女子25%は男子対女子の比率が3:1となることである。学部の学部在学者数もこの調子で進めば昭和62年には念願の3:1以内となり25%に達すると予測される。大学計における女子学生数の25%突破はその翌年か翌々年になるものとこれも予測される。今日就職の機会均等や男女雇用条件の平等が強く叫ばれているので以上のことは案外楽に達成されることと思う。大学キャンパスは新時代を迎えることになった。

5 大学院学生数

大学院の学生数は74,300人で前年度より4,600人増加している。設置者別では国立45,900人(61.8%)、公立3,200人(4.3%)、私立25,200人(33.9%)。

性別では男子64,400人(86.7%)、女子9,900人(13.3%)となる。私立大学は学部では75.0%を占めるが大学院の方では33.9%であり、女子学生も学部では24.5%を占めているが大学院のそれは13.3%にすぎない。また、大学院学生の専攻分野別構成比を見れば、修士課程では工学が43.5%で最も高く、博士課程では医・歯学が40.5%で最も高い。なお、前年度にくらべると、修士課程では理学・工学が上昇し、人文科学・農学・薬学は低下しており、博士課程では工学・農学・医歯学が上昇し、人文科学、社会科学・理学・薬学は低下している。

6 短期大学

学生数396,500人で前年度より25,400人増加している。

設置者別の構成比を見ると私立が、90.1%と最も高い。また、女子の学生数は、357,900人で前年度より24,700人増加し、全学生に対するこの比率は90.3%で前年度より0.5%上昇している。短大(本科)学生数は391,100人で前年度より24,900人の増加となっている。短大本科の学生の構成比を見ると家政が26.1%で最も高い。また、前年度に比べると人文・社会は上昇し、工学・保健・教育は低下した。

文 献

- (1) 文部省大学課 全国大学一覧 昭和61年版 1986-7-15発行
- (2) 文部省調査統計課 文部省統計要覧 昭和61年版 1986-5-30発行
- (3) 文部省調査統計課 昭和61年度学校基本調査速報 1986-8-12発行

(受理 昭和62年1月25日)